

キアシハナダカバチモドキの大発生について

中西 明德

1996年8月6日、三田市役所の管理課からフラワータウン富士が丘の緑道にハチが多数発生して飛び回っており、作業をするのに支障がある、駆除したいが薬剤を撒いても大丈夫だろうかという問い合わせがあった。一般の人の目にとまる程の大きさのハチで、しかも大量に発生しているという事から推定すればアシナガバチ類もしくはスズメバチ類の可能性があると考えられた。とにかく一匹でよいからハチを持ってきて欲しいと伝えたところ、早速ハチが届けられた。

体は黒色で、数本の白色の帯が腹部に見られる等、一見したところクロスズメバチかと思われた。ところが手にとって見ると、キアシハナダカバチモドキというきわめて珍しいハチではないか。これは大変なものが出てきたという訳で、三田市の方へは薬剤散布はしないようにとだけ取りあえず伝えて貰い、橋本佳明さんと一緒に早速現地に出かけてみた。現地は兵庫県立人と自然の博物館から歩いて10分足らずという本当に目と鼻の先にあった。

連絡を受けた通り、緑道内のツツジの植え込みを中心に無数のハチが飛んでいる(第1図)。地面にはこのハチが出できたと思える穴がたくさん開いており、その中に潜り込む個体もある。この日見られたハチは多くがオスであったが、中には直翅類の昆虫を捉えてきて穴に入ったメス個体もあった。一通り発生状況を確認し、写真を撮った後、いくつかを博物館資料として採集した。この日現地でみた個体は100を遥かに越えていた。

三田市へは、このハチは手で捕まえない限り刺される事はない、この発生は長くて2週間ぐらいで終わるだろう、さらに全国的にみてもきわめて珍しい昆虫であり、薬剤散布という手段を用いる

必要は全く無いという事を伝えて置いた。

この出来事があったから数日後(8月16日)に、神戸市立森林植物園の三宅慎也さんから藤原台と鹿ノ子台の2カ所でキアシハナダカバチモドキが多数発生しているという情報を頂いた。案内してもらえらるという事であったから早速大谷剛、八木剛の両氏と出かけ、森林植物園と神戸市土木局北区出張所の方々に現地を案内して貰った。現場は次の通り：

1. 掖谷(ねぶたに)公園(神戸市北区鹿ノ子台)；造成後間もない公園内の緩斜面、疎らに庭園木が植林されている。
2. 渡り尾公園(神戸市北区藤原台)；公園内の砂場。

三宅さんの方への情報は、2に多数のハチが飛び回り、子供が遊び回る関係で危険だという観点

お手数ですが同封のカラーコピーを
貼り付けて下さい

第1図 キアシハナダカバチモドキ ♂
三田市富士が丘, 1996-8-6

からの情報であったようで、早速に機械が入り整地されてしまった。発生している時点では、砂場に無数の穴が明き、ハチが飛び回っていたという。現地を見に行ったときには、表面は見事に均されており穴は見あたらなかった。それでも時々メスバチが獲物を抱えて戻ってきていたので幾らか残っていたのであろう。1 に関しては前日関西を通り抜けた台風 6 号による被害状況を土木局の人が調べに行った際に見つけたという。それほど多くの個体が見られた訳ではないが、その殆どがメスであり盛んに狩から帰ってきていた。

当日、ついでに富士が丘の発生地に回ってみたが、発生は殆ど終わったと見えてごく少数のメス個体のみみられただけであった。

キアシハナダカバチモドキ (*Stizus pulcherimus* Smith) のプロフィール

アナバチ科に含まれる体長 2 cm 程の中型の力バチで、地中に主坑の長さ 40 cm にも達する巣坑を掘り、直翅目昆虫を狩り幼虫の餌とする。この営巣習性から生息地は限られており、海浜の砂質地にやや集団で巣を作るという(岩田久二雄, 1982)。

日本では本州、四国、九州に分布するとされる(安松京三, 1965)。兵庫県においては神戸市須磨区の須磨浦公園内の砂礫地で発生が確認されている。その他、神戸市灘区の神戸大学構内や武庫川の河原でかつて見かけた事があるという(八木 剛, 私信)。この様に本種は日本の各地に分布していた可能性はあるが、正確な分布地の記録もほとんどなく、その特殊な生息環境のため絶滅に至った地域も多々あるものとおもわれる。

国外における本種の営巣地は海浜や河川砂礫地に限られて居ないようで、朝鮮では礫の混じった赤土で被われた小丘上の日当たりの良い裸出地で集団で営巣している事が報告されている(常木勝次, 1943)。

大発生を巡るいくつかの疑問

これまで居なかったのか？

三田市富士が丘の発生地は、1 週間に一度チョウのセンサスのために二人一組で歩いていたルートの上に引っかかっている。これまでの 3 年間はこのハチの発生には気がつかなかった。もし今年のように大発生していたものなら恐らく気がついていただろう。細々と発生を繰り返していたのだろうか。尚、8 月 8 日は定期調査で現地も通ったが、その時には 6 日と同様に多数の個体が飛翔していたが、オス個体が大部分であった。

このハチはどこから来たのか？

上に述べたようにこのハチは日本では本来海岸の砂浜や、河原の砂地等に営巣するハチである。今回発見された営巣地は、藤原台の砂場を除いては本来の繁殖地とはかけ離れた生息環境にある。従ってこのハチの由来に付いては、大きく 2 つが考えられる。

- 1 : 元々神戸市の北から三田地方にかけた低山の日当たりの良い裸出地(砂礫地?)に棲んでいたが、開発にともなってこのハチに取って好適な環境が拡大し、徐々に個体数を増やしてきて、この度爆発的に増加した。
- 2 : 本来今回発見された地には居なかったが、公園や砂場の造成のために他所から運んできた土や、砂などの中にこのハチの巣や幼虫などが含まれており、これらから発生したハチが世代を繰り返した後に、昨年から今年にかけて何らかの好条件に恵まれて今年大発生した。

上記の 1 のケースの場合には、ここ近年開発されたさまざまな土地でもっと普遍的に同様に発生しても良いと思われる。これまでの所そのような情報は得ていないので可能性は少ないかも知れない。

い。2のケースの場合には同じ様な造成を行なった所で、しかも同じ所から土や砂を持ってきた所が有ればこの可能性がより強く支持される。菟谷公園の造成に用いた土は三木市口吉川から運ばれたという事は分かっている(神戸市土木局北神戸出張所の話)。三田市フラワータウン富士が丘の緑道整備の土や藤原台の渡り尾公園の砂が何処から来たかが明確になればそれらの現地で発生の有無を確認したい。

来年以降どうなるのか？

プロフィールで見たとおりこのハチは全国的にも大変珍しいものである。兵庫県では須磨浦公園が唯一の確かな発生地である。ただ此処もこの数年現認はされていない。兵庫県版レッドデータブックには、きわめて珍しい昆虫であるが偶発的な発生の可能性があるので、敢えてこの種とその発生地を推薦する事をしなかった。来年以降神戸北部から三田へかけての地域で継続的に発生する事が確認されるなら、それらの土地そのものの保護を図る位の価値があるだろう。

来夏にはこのハチの発生を広域に調べる必要がある。一般の注意を喚起する方策を考えたい。本種の発生に気がつかれたときに連絡頂けると幸いです。

尚、東京都足立区の荒川放水路河川敷からも本種の1♂, 1♀が記録された(青木 隆, 1996)。日本全国で本種が大発生しているのかも知れない。

本小文を記すにあたり、現地に行かれた兵庫県立人と自然の博物館の大谷剛、橋本佳明、八木剛の諸氏、発生情報を寄せられた神戸市森林植物園学習の森の三宅慎也氏ならびに発生現場へ案内された神戸市土木局の皆様へ御礼申し上げます。

<参考文献>

- 常木勝次(1943) キアシハナダカバチモドキ (*Stizus pulcherrimus* Smith)の習性. むし, 15: 37-47.
- 安松京三(1965) 原色昆虫大図鑑 III. 301p., 北陸館.
- 岩田久二雄(1982) 日本蜂類生態図鑑. 23-24pp., 講談社
- 青木 隆(1996) キアシハナダカバチモドキを東京都足立区で採集. 月刊むし, No. 308, Oct. 38p.

(NAKANISHI MEITOKU 〒669-13 三田市弥生が丘
6 兵庫県立人と自然の博物館
Tel. 0795-59-2012, Fax. 59-2019)

神戸のヘリグロチャバネセセリ 山口 福男

神戸市のヘリグロチャバネセセリについて、私は本誌第24巻2号30ページに採集記録の確認がとれていないと報告した。このことについて近藤伸一・岡村八郎・青木陽一の3氏から早速連絡をいただき、本種が六甲山系の南面で採集されていることが確認できた。採集地点は袖谷・再度谷・鳥原、時期は6月下旬から7月。詳細なことについてはそれぞれ報告されると思われるので、ここではとりあえず速報して文資をとらせていただくことにしたい。情報をいただいた各氏に厚くお礼を申し上げます。

(YAMAGUCHI FUKUO 神戸市須磨区神の谷3丁目6-4)